

第33回 神奈川県福祉作文コンクール

“おもいやり”や“たすけあい”の心を育み、「ともに生きる福祉社会」の実現を目指して始められたこのコンクールは、今年で第33回を迎えます。

その間、“やさしさ”あふれる約42万編もの作文が寄せられました。小学生も、中学生も、お年寄りも、障がいのある人も、健康な人も、みんなで手をとり合い、肩くみあって、生き生き暮らせる社会を願って福祉作文コンクールを実施いたしました。

■県内応募総数11,133点(小学校の部7,485点 中学校の部3,648点) ■市内応募総数87点(小学校の部16点 中学校の部71点)

県最終審査会において選考の結果、市内より3点が入賞されました。おめでとうございます!!

- 【小学校の部】 佳作……………鎌倉市立腰越小学校 6年 村上 うららさん
 【中学校の部】 優秀賞(日本放送協会横浜放送局長賞)……………鎌倉市立手広中学校 2年 中山 麻奈さん
 準優秀賞……………鎌倉市立玉縄中学校 2年 高田 沙季さん

今回は中学校の部で優秀賞(日本放送協会横浜放送局長賞)を受賞されました、中山麻奈さんの作文をご紹介します。

皆さんは『認知症』という言葉を知っていますか。認知症とは、脳の病気です。原因は脳を使っていないことや脳の細胞に変化が起きることと言われています。年のせいからくる物忘れとは違います。あとになっても思い出せず、一度経験したことを忘れてしまいます。そのため何度も同じことを言っ

てしまいます。突然交番から電話が来ました。祖父を預かっているというのです。家族は訳もわからず、あわてて車で交番に向かいました。同じ市内とは言え、その地域は私達家族が行った事は、セロに等しい場所でした。交番の椅子に座っている祖父は、とても小さく、弱々しく見えました。祖父の目には私達はどう映ったのでしょうか。どんな事を思いながらそこに座っていたのでしょうか。名前も住所もわからなくなり、交番の方は祖父が持っていた書類の中から、名前と電話番号をみつけたそうです。祖父は七十六歳。この日も会社に行くことと家を出

ました。ずっと仕事一筋で、家にはたたくさんの専門書や書類が山積みなされ、その中に置かれた大きな机でいつも仕事をしていました。慣れないパソコンも本を見ながら、使えるようになりまし。若い頃から好きだったという語学もたんのうです。私達にも良い経験だからと、ホストファミリーになり、今までも色々な国の人がホームステイにきました。今までも聞いた事のない言葉を祖父が話して来た時、とてもおどろき、カッコイイと思

いました。私が英語が好きなのは、そんな祖父のおかげかも知れません。いつも堂々としていて元気でやさしい祖父…それがどうして。その後、祖父は検査をするため入院しました。その一週間は日を過ごすことに、状態が悪くなっていきました。ベットから自由に動けないヘルトをされました。夜中に勝手に徘徊して、部屋に戻れなくなりました。お見舞いに行っても、話していることがよくわかりませんでした。ただ家に帰った

そうでした。皆さんは『認知症』という言葉を知っていますか。認知症とは、脳の病気です。原因は脳を使っていないことや脳の細胞に変化が起きることと言われています。年のせいからくる物忘れとは違います。あとになっても思い出せず、一度経験したことを忘れてしまいます。そのため何度も同じことを言っ



鎌倉市立手広中学校 二年 中山 麻奈

突然何が!?

認知症は治ることはないそうです。でもその進行を遅くすることはできるそうです。私が高校生、大学生、社会人…少しでも楽しい時を、祖父と一緒に過ごしたいと思います。そのために私達ができることを考え、家族みんなで力を合わせたいと思っています。

家族も私も、とても落ち込みました。母はもう祖父とは、一度と話すことが出来ないと思、一人で泣いたと言っていました。私もとても悲しく、今まで感じたことのない気持ちでいっぱいでした。祖母はもっともつとつらかったらどう思います。でもこうしていてもどつともならないので、私達には何が出来るかを考えました。まず、祖父にたくさん話かけること、日時・曜日の確認を毎朝します。祖父をできるだけ一人にしないことです。テレビも一緒に見たり、ゲームをしたり、そばに誰かがいるようにしました。祖母、父や母だけでなく、妹や私もできることをしています。でも、そんなことが想像以上に大変なことでした。特に大変だったのが、祖父の機嫌が悪い時にどう接するかです。あまり下手なことを言うと怒ってしまい、何も

ないでいるとぶつぶつ言いだすのでした。この時に私の方が、怒ってしまいたくなります。でもうれいこともあるので、その時のことを考えて接するようにしています。私より祖母は何倍も祖父と一緒にいる時間が多いので、大変だなと思います。病院や買物、散歩にも一緒です。祖父のたくさんの薬も管理します。誰よりもつらい祖母なのに、祖父のために頑張っている、私はすごいと思っています。でもうれいこともたくさんあります。それは、祖父に「ありがとう」と言ってもらったことや、祖父が明るい時です。そうなる「次もまた頑張ろう!」と思

私は今まで『認知症』という言葉をとてとても遠くに感じていました。もちろん症状など、全く知りませんでした。でも今はとても身近に感じています。なぜなら、私の祖父が軽い『認知症』になってしまったからです。

家族も私も、とても落ち込みました。母はもう祖父とは、一度と話すことが出来ないと思、一人で泣いたと言っていました。私もとても悲しく、今まで感じたことのない気持ちでいっぱいでした。祖母はもっともつとつらかったらどう思います。でもこうしていてもどつともならないので、私達には何が出来るかを考えました。まず、祖父にたくさん話かけること、日時・曜日の確認を毎朝します。祖父をできるだけ一人にしないことです。テレビも一緒に見たり、ゲームをしたり、そばに誰かがいるようにしました。祖母、父や母だけでなく、妹や私もできることをしています。でも、そんなことが想像以上に大変なことでした。特に大変だったのが、祖父の機嫌が悪い時にどう接するかです。あまり下手なことを言うと怒ってしまい、何も

ふくしコラム12



元 鎌倉市協住宅改造相談 相談員 一級建築士 大川 友理枝



施工業者選びの話

住宅改造相談の後、施工業者選びで一番良いのは、その家を建ててその家の構造を良く知っている工務店・住宅メーカー会社です。高齢者の改造工事に理解をもち、知識を持っている業者でもよいと思います。初めてバリアフリー工事をする業者にも、できるだけ提案内容を理解して頂けるような、提案図を書くように私は心がけています。

施工業者さんに心当たりがない方の為に、社協では(社)かながわ住まい・まちづくり協会が主催する、高齢者住宅改造施工業者登録の為の講習会を受けられた方のおられる登録事業者の名簿を呈示しています。先日この講習会の講師をさせて頂きました。皆さん真剣に受講して、勉強しようという意欲が見られました。「よい仕事をたくさんしてください」とエールを送りたくになりました。実際に工事が完成してから再度伺う機会があります。改造状況・その後の生活が改善されているかを見せて頂きます。提

案図通りにきちんと施工されている時や、必ずしも提案図どおりの手摺ではないけれど、強固に取り付け主旨にあっていれば、かえって提案図より良い場合もあります。そんな時はバリアフリーについてよく理解されている施工業者さんで良かったと思います。

また、この際なので給付額すべて使う為か、不必要と思われる手すりが付いている事があります。介護保険の住宅改修の給付金は、一度に使い切る必要はありません。再度の手続きは少し面倒ですが、必要な時に必要な改造をしてください。

対象者の身体状況・生活状況を十分理解して、無駄のない適切な改造が実現する事を願います。

6回にわたり執筆いただきました大川友理枝氏の体験をもとにしたふくしコラムは、今回をもって終了いたします。ご愛読ありがとうございました。次号より新たなコラムが始まります。

福祉施設からのお取り寄せ

今回はここ

社会福祉法人 清和会 鎌倉清和園

〈靴拭き〉

寄付された中古ストッキングを輪切りにし、編み込んだものを2枚合わせて周囲3辺を毛糸で編み完成します。



袋状になっているので、手を入れて使えます。靴や窓ガラスを磨くとピカピカになります。ステンレスや浴槽洗いにもお試しく下さい。おまとめ注文も承ります。

〔靴拭き (大)…200円 (小)…100円〕

鎌倉清和園からの一言…

鎌倉清和園では、地域のニーズに対応する即時性と柔軟性をもって、入所者一人ひとりの能力に応じた働く場の多様性や選択の機会を広げ、より良い豊かな暮らしが出来るよう弾力的な運営を行っております。作業に必要な古ストッキング(洗濯済み)・毛糸・古切手のご寄付に皆様のご協力をお願いいたします。



● 詳しい商品紹介についてはホームページをご覧ください。 [鎌倉清和園](#) [検索](#)

連絡先 鎌倉清和園 鎌倉市関谷753番地 電話(46)8700 お気軽にお問合せください。

※はじめの一歩はお休みしました。